

第九十回フォト句優秀作品（30年12月10日）





ボート一艘

レース離れて

冬うらら(勝)



隠し穴

不思議の国に

誘い込め(三春)



食べ過ぎて腹の皮まで緑色 (アキヤ)



石の字が似合う(昌康)

首を切る人には

寸 評：

1) 薄雪を被り木の葉も丸くなり 大越 浩平

猫も丸くなるような身にしみる寒さ。よく見ると薄雪を被った木の葉までも丸くなっているという観察のよくきいた作品である。

2) ベンチをも紅に染めにし楓かな 池田 隆

京都の神社の一風景だが、紅葉ではなくベンチを主体に捉えたユニークなアングルと色合がマッチした落ち着いたある作品だ。

3) ボート一艘レース離れて冬うらら 清水 勝

競走用のボートが一艘だけ広い川面を滑っている。遠景のアングルを上手くつかって孤独感を出している。冬うららの季語も効果的。

4) 隠し穴不思議の国に誘い込め 三 春

お寺の回廊の節穴に落ち葉をあしらった不思議な構図と句。将来、風景写真ばかりでなくこんな作品が増えてくるような予感がする。

5) 食べ過ぎて腹の皮まで緑色 中村 晃也

食べるしか能がない、こんな老人にはなりたくない！

6) 首を切る人には石の字が似合う 松田 昌康

日本の自動車会社に乗り込んで2万人の首切りをした、石の心を持った人がいたというメタファー（暗喩）なのか？

付け句



今月のお題写真は清水さんの提供。草津温泉の足湯の画像です。

寸評：

1) 湯の街でダイコンゴボウの品評会 大月 和彦

お湯の中に太い白い足、黒い足が並びまるで根菜の品評会のようだ。

画像をみて直感的に浮かんだ素直な句が共感を呼び、第一位に入選した。

2) 明け方に猿とヒトとが入れ替わり 三 春

人間とサルとが共存する山の温泉の実情をよく捉えている。明け方に主が入れ替わるなどと微妙な関係を句にした点を評価したい。

3) 混浴と聞きて来たれば足湯かな 池田 隆

文語調の言葉使い。いかにも好きものの爺さんの、混浴への期待を裏切られたがっかり感がよく出ている。

4) 暴力団歓迎の湯場足洗い 池田 隆

通常の温泉では刺青の人たちは入浴禁止であるが、足湯なら許され、むしろ歓迎されるのであろうか？ 下5の足洗えが暴力団への言葉としてよく効いている。

5) よい機会タダで治そう水虫を 矢澤 正二

長年患っている水虫を無料の足湯に入って治そうなんていうサモシイ気持ちに共感して、つい笑えてしまうユーモラスな作品だ。

「年末のご挨拶」

毎月写真を撮り、適切な句をつけて二作品を提出するのは、かなりの努力とセンスが要求されます。皆様のご努力により年々写真の撮影技術も作句技術も向上し、勉強会も皆様の発言も多くなり充実して参りました。会の運営もマンネリにならないようにいろいろ工夫して参りたい思っております。来年もボケ防止のためにご一緒に楽しく勉強したいと思っております。よろしく願いいたします。 以上

